

## 式辞（平成21年度）

入学式にあたり、お祝いと歓迎の言葉を申し述べます。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。幾多のご努力とご苦労を経て、ついに皆さんは大学生、あるいは大学院生となられたわけで、その喜びはいかばかりかとご推察申し上げます。また、ご列席いただいているご父母をはじめとするご家族の方々にもお祝いを申し上げます。

さて、大学生になられた方々は、これまでにいろいろな折に、大学生活についての話を聞いてこられたことと思いますが、今日(きょう)、とりあえず、それらの話は全て忘れて、先入観のない、ま新しい気持ちで大学生生活のスタートを切っていただきたいと思います。

大学生活は、長いようで実に短いものです。この間に何かを学び、何かを身につけることはたやすいことではありません。大学の各学部、各学科および大学院各研究科にはそれぞれ専門分野があり、それを目指して皆さんは入学されたわけですが、大学教育には、ただ専門を学ぶという以上の意味があることを知っていただきたいと思います。

私は戦後間もない時期に教育を受けた者ですが、そのころ何度か聞いた話にこういうものがあります。戦時中、若者を動員して工場で靴を作らせたところ、大学生がいちばん上手に靴を作った、というのです。この話が真実かどうかについては甚だ疑わしい点があります。たまたまそこに手先の器用な大学生がそろっていたのかもしれませんが、本学を卒業すると靴が上手に作れるようになる、と保証するわけにもいきません。しかしながら、この話が比喩として伝えようとしていることは真実に触れていると思われる。つまり、教養とは応用力ということだ、ということです。大学で専門とすることがそのまま職業に直結するとは限りません。いちど就いた職業を途中で変更せざるをえなくなるかもしれません。そのためにも遅く豊かな応用力を身につけていただきたいと思うのです。最近、人間力という言葉が耳にしますが、人間力というものも、結局は応用力と言い換えてもよいものかと思います。しかし、漫然と日々を過ごしても、その力はつきません。

大学は高校に比べて自由だと考える人がいますが、それは必ずしも正しくはありません。授業自体はむしろ高校よりも厳しいものだと思ってください。授業に関して自宅や学校で行う作業も、高校よりははるかに多くなります。但し、勉強のなかで、学生の自主性や独自の発想が尊重される、という点では、確かに自由だと言えます。自由ということ、気ままとかのんきとかの意味に解釈していると、大学生活の始めからつまづくことになります。

自主性は大学の本質であり、命であります。投げかけられる大きなものを受け止めるとき、棒立ちのまま受け止めては、取り落したり、後ろにひっくりかえったりする危険がありますが、自ら一步前に入る気持ちで受け止めれば楽に受け止められます。自ら一步前に入る気持ち、それを大学では自由と言うのです。棒立ちのまま大学生活を送る人は、かえって余計な苦労をしたり、不自由な思いをしたりすることになります。自由の意味を知っている人にとっては、大学はかぎりなく楽しい場所です。どうか皆さんには、本当の意味での自由を謳歌していただきたいと思います。それが青春というものではありませんか。

今日(こんにち)の社会情勢にはきわめて厳しいものがあり、大学もそのことに無関心ではできません。経済ばかりでなく、政治や国際情勢にいたるまで、不安な状況が続いています。皆さんが本学に在学中に、豊かな教養に裏づけされた、どんな状況にも耐えうる確かな人間力を身につけて、力強く社会に巣立ってゆかれることを願っています。

皆さんの学生生活の実り豊かならんことを祈念して、式辞とさせていただきます。

平成21年4月2日